

第1回 GN*H 調査（南花台総合幸福度調査）の速報

関西大学（社会学部・与謝野研究室）では、スマートエイジング事業への協力の一環として、南花台総合幸福度（Gross NANKADAI Happiness：略称 GN*H）調査を実施いたしました。本年10月13日（土）に、南花台にお住いの皆さんの「幸福度」を測定する目的で、800通の調査票をランダムに住民の皆様のポストに投函させていただきましたところ、431通の郵便での回答がありました。回収率は53.9%となっており、こうした調査方法としては、近年に例を見ない高回収率となっています。皆様の地域に対する関心の深さを感じますとともに、調査へのご協力に心から感謝しております。

GN*H 調査では、ブータン、イギリス、フランス、東京都荒川区などでの測定方法を踏まえ、地域への満足感、将来への不安感、地域への信頼、皆様の健康状態などの項目で総幸福度を測定しています。

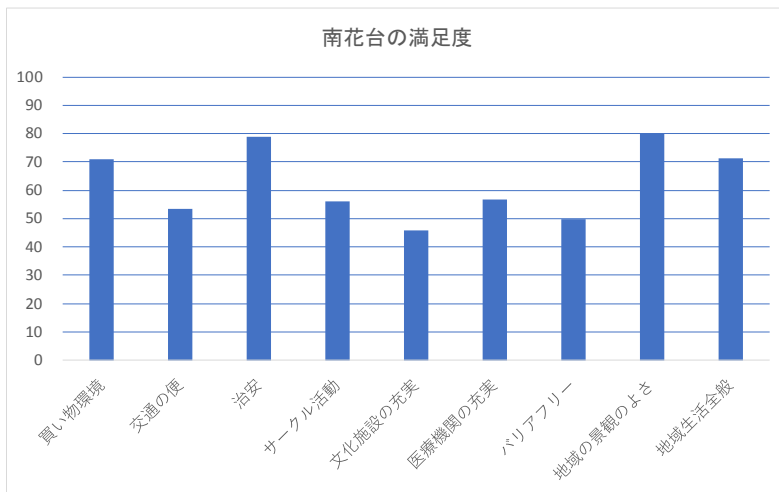
総幸福度を最終的に求めるためには、いくぶん複雑な統計計算が必要になり時間がかかりますので、ここでは、一次集計結果を速報としてお知らせしています。また、2016年にも、関西大学は南花台で調査を行っていますが、今回と調査項目が完全に一致しているものにつきましては、今回の GN*H 調査と比較しています。ただし、2016年調査と第1回 GN*H 調査では、調査の方法も異なり、また、回答者の年齢も第1回 GN*H 調査の方が高齢者が多くなっています（65歳以上の方は、2016年で約48%に対して、第1回 GN*H では約61%）。そのため、比較の結果はあくまで参考としてお受け取りください。

以下、質問順に結果を解説します。また、調査項目につきましては、別紙をご参照ください。

関西大学・社会学部・与謝野研究室

この調査は、
科学研究費・基盤研究（B）：研究課題番号・26285125
の助成を受けて行われています。

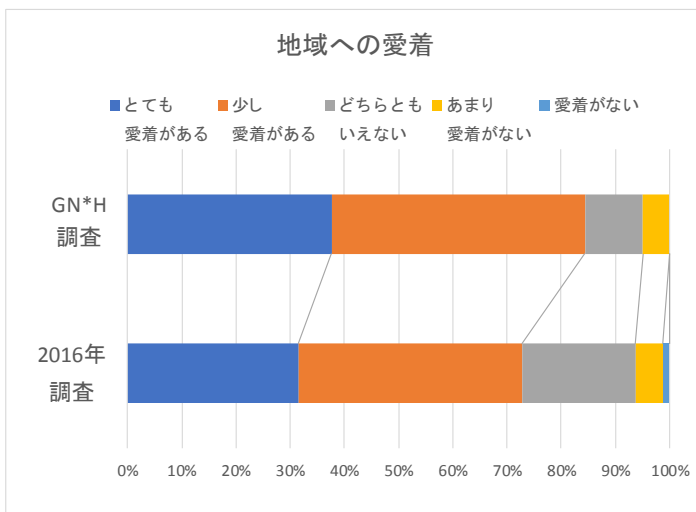
・南花台に対する満足度

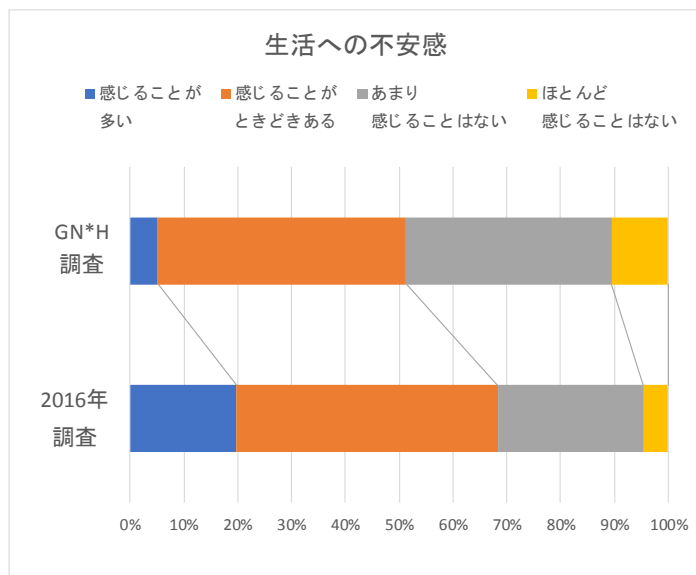


南花台への満足度の平均を100点満点で表わしてみました。「景観の良さ」「治安」への満足度がほぼ80点となり、続いて「買い物環境」への満足度が70点を超えています。この3つについて住民満足が高いことが分かります。一方、「文化施設の充実」「公共施設のバリアフリー」については満足度が50点を切っており、インフラの整備について課題があると感じている方が多いようです。また、「交通の便」への満足も50点を少し超える程度に留まっています。

・南花台地域への愛着

地域へ「愛着がある」と答えた方は、「とてもある」「すこしある」を合わせると8割を超えています。全体として南花台への愛着は高いといえるでしょう。また、年齢構成などを考慮した詳細な分析が今後必要ですが、単純に比較すると2016年調査よりも10%近く「愛着がある」という方が増加しています。ただし、「愛着がない」という方も5%以上おり、こうした方々の地域への愛着を上げていく工夫が、今後必要かもしれません。



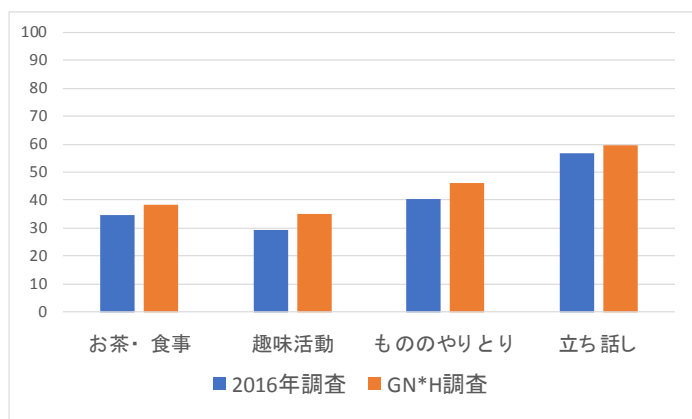
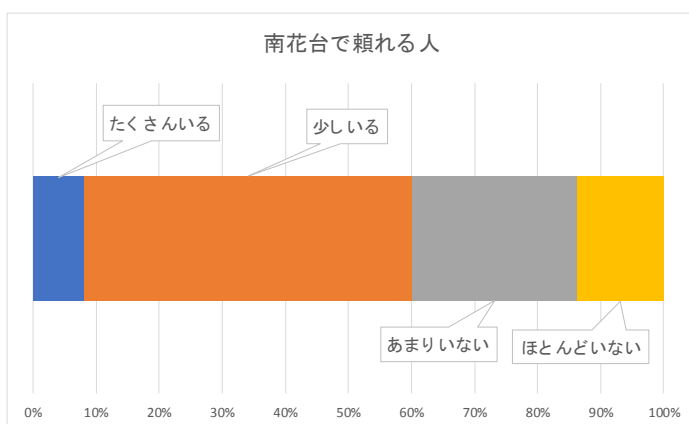


・生活への不安

現在の生活に不安を感じている方は、「感じる事が多い」、「感じる事がときどきある」を合わせると約5割となっています。この不安の内容については、この調査からは明らかになりませんが、今後、約5割の方々の不安の原因を探り、できるかぎりそれを小さくしていくような取り組みが必要です。ただし、2016年に比べると、不安を感じている方の比率は、2割弱減少しています。この減少が実質的なものなのか、また、この理由が何なのかについて、今後、統計的な研究等から明らかにする予定です。

・南花台で頼れる人の数

地域の中で頼れる人が多ければ多いほど、生活の不安は減っていくと考えられます。そこで、地域内で頼れる人がどのくらいいるかについても聞いてみました。「たくさんいる」「少し」いると答えた方が約6割いますが、逆にいうと、約4割の方では頼れる方が「あまりいない」か「ほとんどいない」状況です。地域内の助け合いの仕組みが、現在さまざまな形で工夫され、具体化が探られています、その重要さが示されているように思えます。

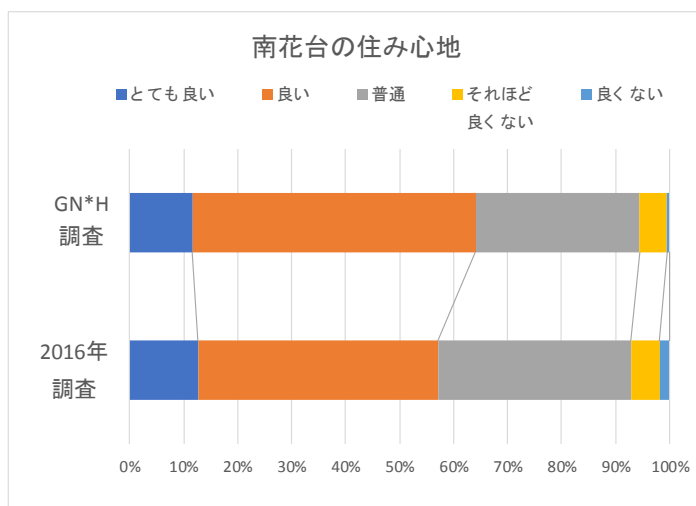


・地域内での交流

地域内での様々な交流を100点満点で評価してみました。「立ち話をする」が約60点となっています、あとはすべて50点を切っています。2016年の調査よりも全体に点数は上がっていますが、年齢が高いほど交流が高い傾向があるため、今回の調査が高齢者を多く含むことが理由だと推測されます。南花台では、住民交流を進める様々な取り組みがなされていますが、まだ改善の余地は残されているようです。

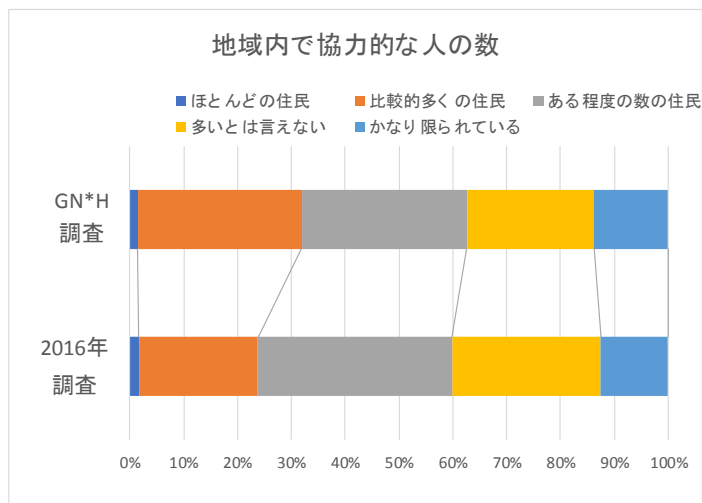
・南花台の住み心地

南花台の住み心地について見てみると、6割以上の方が良いと答えています。また、2016年と比較すると、「とても良い」「良い」の合計は10%近く改善しています。ただし、「とても良い」だけをみれば若干減少しており、また、「それほど良くない」と答えた方の比率も約5%で変化していません。全体から見ると少数ですが、こうした方々の不満の内容を把握し、満足している方の住み心地も含めてさらに改善していくことが必要そうです。



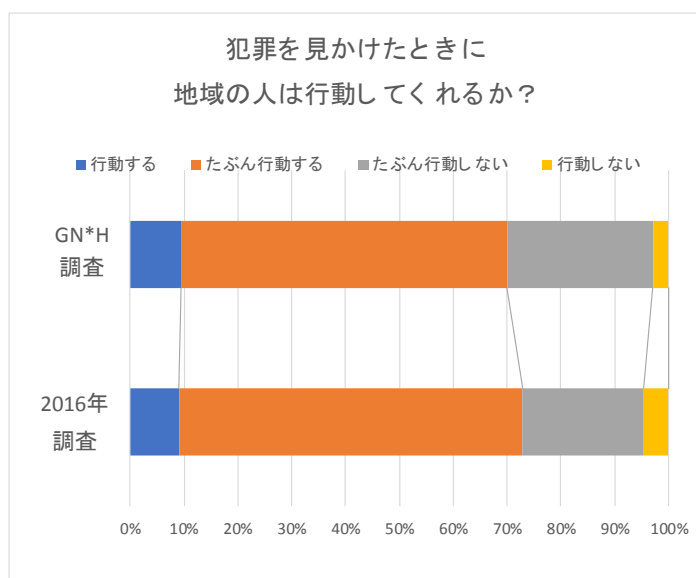
・地域内で協力的な人の数

これまでの研究では、人々の協力姿勢への評価が重要と考えてきました。そこで、「地域をよくするために協力的な人はどのくらいいるか」について聞いたところ、2016年よりは改善していますが、「ほとんどの住民」「比較的多くの住民」と答えた方の数は3割強にとどまっており、また、「かなり限られている」と考えている人も15%近くいます。治安への満足が地域内で高い一方、地域内の協力への期待はまだ十分には高いとはいえないようです。



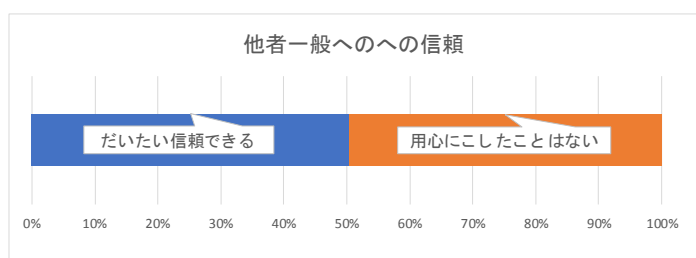
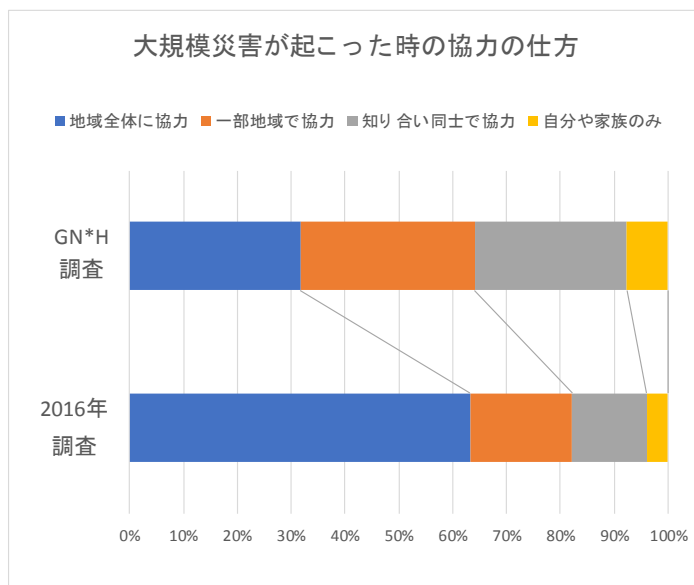
・犯罪時の地域の人々への信頼

最近の多くの社会科学の研究は、国際比較などから、他人への信頼感が地域の発展に重要だとしていいます。南花台では、治安に関する住民満足度が高いことは前にみましたが、自分が犯罪にあいそうになった時に、地域の人々が助けてくれることへの信頼感はどうでしょうか？結果、約7割の人が助けてくれるだろうと想定しています。ただし、約3割の人は、地域の人々は助けてくれないだろうと想定しています。地域内の交流にまだまだ改善の余地があることは前にみましたが、そうした点が一部の方々の信頼の醸成を妨げているのかもしれません。この改善も今後の課題といえそうです。



・大規模災害時の地域の人々への信頼

前で、犯罪時への地域の人々への信頼について見てみました。個人の方ではどうしようもない大規模災害時に地域の人々が協力することへの信頼はどうでしょうか？驚いたことに「地域全体に協力」と答えた人の割合は、2016年には6割を超えていたのですが、今回の調査では約3割と半減してしまいました。こうした大きな意識の変化は年齢構成の違いとは想定できません。通常2年の間にはまず起こらないようなこの信頼の減少は、本年の大規模な台風被害の経験が影響しているのかもしれません。この点は、今後別の形で調査を補足しながら明らかにしていく必要があります。

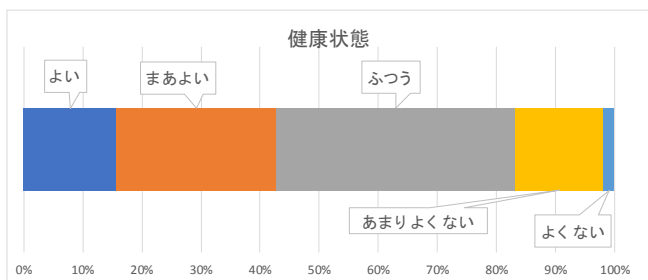
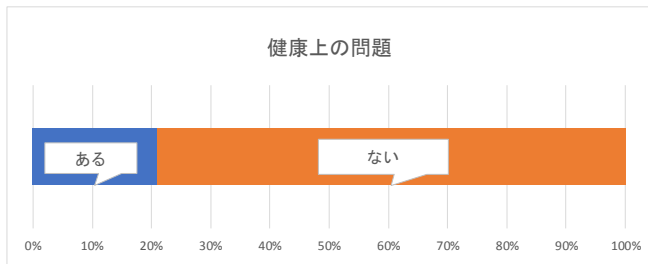
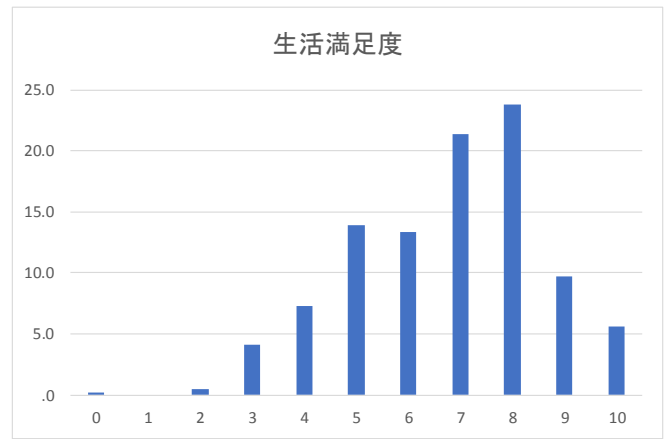


・一般的信頼 国際比較で用いられる「一般的な他者」に対する信頼についても聞いてみました。日本の信頼感は国際的にみて真ん中あたりに位置するといわれますが、南花台の皆さんの回答もそれに一致します。ただし、地域への信頼の高さを考えると「信

頼できる」が少なすぎるようですので、この項目自体の有効性を再検討する必要があるようにも思えます。学問的な興味の大い結果となっています。

・生活満足度

生活満足度を 0～10 点で評価してもらいました。多くの方が 5 点以上を付けています。内閣府の調査では、3 割弱が「不満」と答えていますが、4 以下を「不満」としてカウントすると、その割合は 12%となり、日本全体よりかなり低くなります。また、厳しめに見ることにして、6 以上を満足としてカウントしても 74%が満足と答えたことになり、日本全国の約 70%より高い状況です。日本全体との比較はさらに慎重に行う必要がありますが、この指標が第 2 回調査以降、どのように変化するかは極めて重要です。

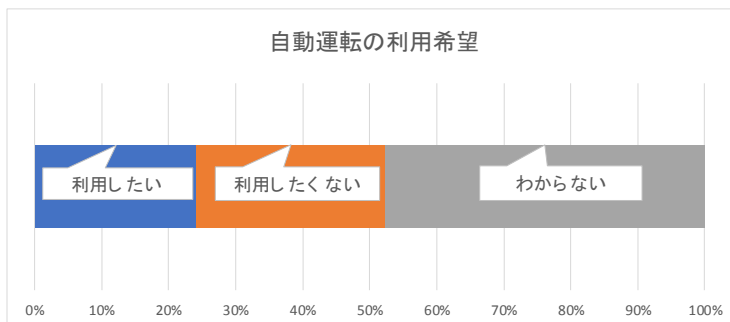
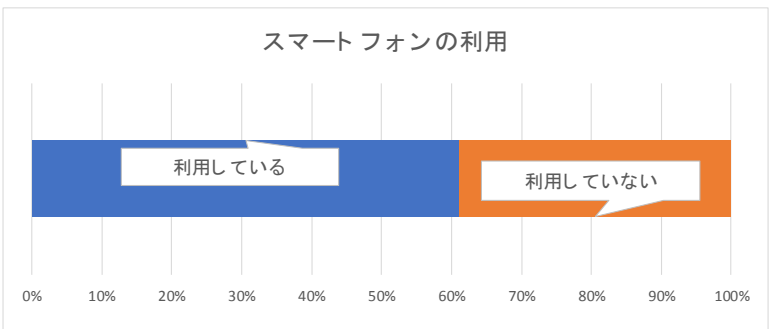


・健康

スマートエイジング事業の柱の一つは、健康寿命の延伸です。健康寿命の推定は、「健康上の問題の有無」と「健康状態」に対する質問をもとに、厚生労働省のプロジェクトで計算されています。南花台で同一の質問をしたところ、図のようになりました。健康上の問題があると答えた方は約 2 割、また、健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた方も 2 割弱でした。図は割愛していますが、年齢が高いほど全体に健康状態が悪化することは、この調査からも明らかになっています。この調査結果から、南花台の健康寿命のおおまかな推定値を計算することが今後の研究上の課題の一つになります。

・スマートフォンの利用状況

スマートエイジング事業では、さまざまなことが検討されていますが、スマートフォンを利用した事業展開の可能性も対象となっています。南花台では約 4 割の方がスマートフォンを「利用していない」という状況で、スマートフォンのアプリを利用した相互扶助システムの導入などにはまだまだ課題がありそうです。



・自動運転の利用希望

来年度から、南花台で自動運転の実験が行われることが決まりました。実用にはまだかなりの時間がかかるものと想定されますが、自動運転を利用したいかどうかを聞いてみました。結果は、「わからない」が約半数で最多となっており、「利用したい」が 2 割強、「利用したくない」が 3 割強となっています。ただし、「利用したくない」の

中には、「現在は元気だが、将来は利用したくなるかもしれない」「買い物の場所まで近いところに住んでいるから必要を感じない」などの意見も含まれています。自動運転の活躍を期待し「利用したい」と考える住民が増えていくためには、機械技術とは別に、地域内で支えあう社会的な仕組みづくりが必要です。この仕組みづくりは簡単ではありませんが、もしも実現した場合には、南花台は世界的なモデル地域になると考えられます。